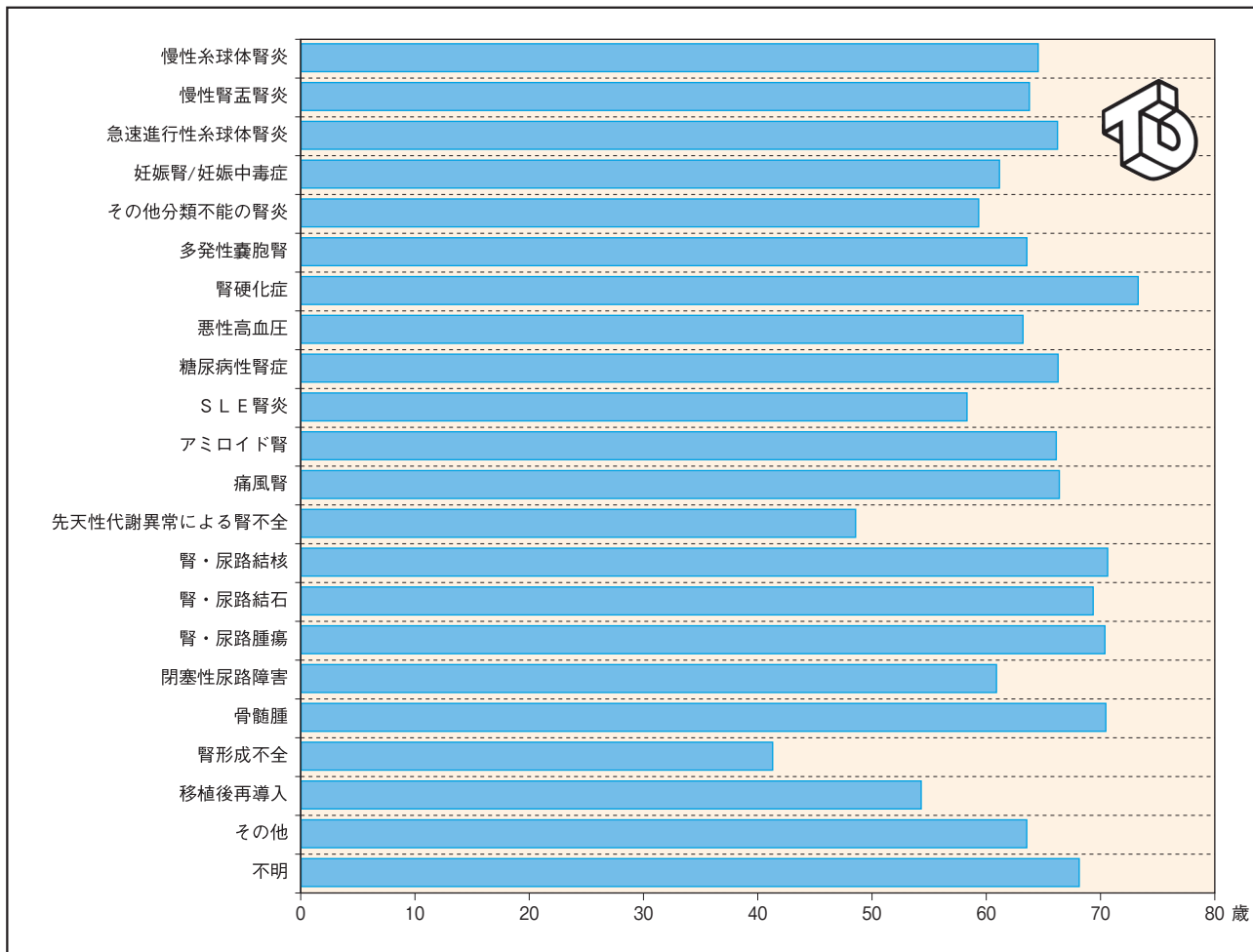


4) 年末患者の現状

(2) 年末患者の原疾患と平均年齢 (図表13)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	105,202 (37.6)	64.50	12.75
慢性腎盂腎炎	3,057 (1.1)	63.73	14.25
急速進行性糸球体腎炎	1,950 (0.7)	66.19	13.85
妊娠腎/妊娠中毒症	1,752 (0.6)	61.11	9.85
その他分類不能の腎炎	1,313 (0.5)	59.29	16.98
多発性嚢胞腎	9,429 (3.4)	63.51	11.03
腎硬化症	19,974 (7.1)	73.25	11.88
悪性高血圧	2,171 (0.8)	63.17	14.62
糖尿病性腎症	98,252 (35.1)	66.24	11.02
SLE腎炎	2,327 (0.8)	58.27	13.76
アミロイド腎	518 (0.2)	66.08	11.25
痛風腎	1,240 (0.4)	66.35	11.64
先天性代謝異常による腎不全	260 (0.1)	48.52	16.80

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	329 (0.1)	70.58	9.38
腎・尿路結石	561 (0.2)	69.31	11.46
腎・尿路腫瘍	727 (0.3)	70.34	11.87
閉塞性尿路障害	687 (0.2)	60.85	18.16
骨髄腫	206 (0.1)	70.42	11.09
腎形成不全	583 (0.2)	41.26	19.72
移植後再導入	2,027 (0.7)	54.26	12.74
その他	5,593 (2.0)	63.50	16.15
不明	21,727 (7.8)	68.09	13.39
合計	279,885 (100.0)	65.76	12.63
記載なし	236	69.19	13.29
総計	280,121	65.76	12.63

患者調査による集計

数値右のかっこ内は列方向の合計に対する%です。

解説

導入患者と異なり、年末患者の原疾患では慢性糸球体腎炎が第一位である。しかし、その比率は37.6%で2008年と比較し1.4%減少した。第二位は糖尿病性腎症であり、比率は35.1%で0.9%増加した。経年的に両者の差は縮まる傾向にある。

年末患者の原疾患別による平均年齢は原疾患の臨床的特徴に影響される部分が多いが、全体の平均年齢が0.5歳増加したことを反映し、慢性糸球体腎炎の平均年齢は64.5歳で前年と比較し0.5歳増加した。同様に各疾患で0.5歳程度増加したが、腎硬化症は73.3歳で前年と同様に0.2歳の増加にとどまった。糖尿病性腎症では66.2歳で0.2歳増加した。